



学校だより

7月号

令和2年6月30日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 金澤 智美

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

子どもたちの笑顔とともに

校長 金澤 智美

雨上がりの木々の緑の美しさに心が洗われる思いがいたします。3ヶ月に及んだ休業後、6月1日から段階的に登校が始まり、学校に子どもたちの笑顔が戻ってきました。

1日から2週間の分散登校では、学級を半分に分けた少ない人数でのスタートでした。まずは、新型コロナウイルス感染症予防について正しい知識をもつために、動画を観たり、実際に行動したりしながら、人との距離の取り方や手洗いなどの生活の仕方について学びました。また、各担任が一人ひとりの子どもと教育相談の時間をもち、休業中の出来事に耳を傾けたり、再開プログラムを活用したりして、安心して登校できるように心のケアにも努めました。

15日には、いよいよ学級全員と一緒に登校する日を迎えました。もう半分のクラスメイトと互いに会える日を心待ちにしてきた子どもたち。その思いは職員も同じでした。各教室から元気よく響いてくる声に、皆うれしそうに目を細めておりました。

まるで、魔法が解けたかのようでした。1年生が蒔いたアサガオの種はすぐに芽を出し、2年生が植えたトマトは赤く色づき、3年生の教室では幼虫が蛹となりモンシロチョウに羽化しました。4年生のゴーヤは実をつけ、5年生の水槽では卵からかえった子メダカが元気に泳いでいます。6年生が植えたジャガイモには花が咲き、個別級の畑では夏野菜がぐんぐん育っています。それぞれがこの時を待っていたかのように、子どもたちの熱い視線を受けて一斉に生長を始めたのです。廊下には、各学年の自己紹介カード、国語や図工の作品、生活科や理科の観察カードが次々と掲示され、子どもたちの息吹とともに、3ヶ月間止まっていた時間が一気に動き出しました。

臨時休業期間には、立ち止まって考えを巡らす機会がありました。学校教育は、単に知識を学ぶだけでなく、人とのかかわり合いや直に触れ合うことで得られることが多いこと。だからこそ、学校は、学びの場であるとともに人と安全安心につながることでできる居場所ではなくてはならないこと。そして、一人ひとりの子どもはかけがえのない宝物であり、私達は、未来を創る大切な人材を育てる大事な役割を担っていること。従って、子どもたちの成長する姿や日々の笑顔が見られることが私達の願いであり、幸せの源であるのだと。

7月から給食が始まり、通常の日課に戻ります。感染症や熱中症の予防には十分留意しながら、子どもたちが楽しみにしているクラブや委員会、ケヤパ活動も開始していきます。引き続き、ご支援とご協力の程よろしく願いいたします。